

月報 シオン山

2023年3月5日発行 (No390)

日本バプテストシオン山教会

☎803-0846 北九州市小倉北区下到津2-15-21

Tel(093)561-0772 Fax(093)561-0760 E-mail:bapshion@eagle.ocn.ne.jp

【月間聖句】

主の成し遂げられた驚くべき御業と奇跡を
主の口から出る裁きを心に留めよ。

(詩編105編 5節)

「賜物を生かして互いに仕える」

坂田千代美

6年前福岡市に転居してから、外国人に日本語を教える生活支援をするボランティアに参加しています。10人ほどの女性ばかりのスタッフで、ほとんどが高齢です。

一年前80歳の代表が、ご主人の病気により家を留守にできなくなりました。グループは18年間、その方のやる気と意欲に依存して代表をお願いしてきたので、突然の交代に困りました。結局60歳前後の人たちはまだ仕事をしており、長年活動してきたスタッフに比べると新参者で若干若い私が、代表を受け継ぐことになりました。

引継ぎをすると、あまりに長い18年間の具体的な実績は元代表の記憶の中にあり、データとして整理して保管された記録はありません。

グループは共催を受けている福岡市と、援助して下さる社会奉仕団体、国際交流センターとの関係、それと外国人に有益なイベントを年二回実施するための外部団体との打ち合わせなど、いろいろな連絡、会議、書類提出が頻繁にあります。この一年間、パソコンに向かい、メールのやり取り、文書作成をしています。そして、このグループで最初に取り掛かった仕事は規約の改正で、代表の任期をまず決めました。

その頃、100周年記念誌委員長の藤田恒姉が緊急入院されました。それで、私が毎月の委員会に出席することになりました。100周年記念委員会の他の役割担当の方々も解散せずに、3月まで一緒に会議に出て下さり、ありがたいことでした。

恒姉は100周年記念誌委員長だけでなく、これまでクリスマス前はリースとアドベントクランツを一人で作り、そして入院中も財務の仕事をなさっています。その他にも、私が知らないところで神様のご用をなさっているのかもしれない。

そして更に残念なことに、夫君の藤田小四郎兄が先日倒れ緊急手術をなさったことです。小四郎兄は恒姉が入院されてから自炊し、記念誌に関する資料を恒姉に頼まれては探したり郵送したり、クリスマスリース用にとローズマリーを沢山切ってお庭から教会に運んでくださり、動けない恒姉の代わりにずっと働いておられました。

ご夫妻だけでなく、他の教会員にも一人で何役も担っている方がいらっしゃるのかも・・・。

今回2つの組織に起こった出来事は、似ています。「できる人・やれる人・やってくれる人」に、安心して依存して任せてしまい、組織としての後任が育っていなかったことです。

教会での組織のあり方を見直す良い機会だと思います。ピンチはチャンスです。

V字形の編隊で飛ぶ渡り鳥は体力を使う先頭を入れ代わりながら、長距離を渡っていくのだそうです。先頭の鳥が空気抵抗を一身に受けて羽ばたいてできた風の揚力を利用して、後ろの鳥の使うエネルギーは少なくすむそうです。後ろの鳥たちは省エネ飛行で渡りができて、先頭は交代で務めるのだそうです。

教会も後ろの鳥が、やがては先頭の鳥に育っていくような組織になることはできないでしょうか。また、初心者の方にもお願いして、お仕事の一端を担っていただかねば、いつまでも誰かがその任をずっと担っていくことになります。

日本社会は高齢社会です。若い人たちは少ないし、忙しい。高齢者が力を発揮する社会です。

教会員が神様のご用の為に少しずつ時間を献げ、その活動の中で育ち、危機に対応できる教会組織を作り上げていくことができれば、と思います。